

Bチャレ チャレンジ部門 実績報告書

団体名	いちごの会 視覚障がい児親子の会	作成日	12月 9日
企画名	いちごの会「ノールック運動会」実施による文京区内での周知活動		
あなたが考える 文京区の課題	文京区には、視覚特別支援学校（以下盲学校）があり、いちごの会の子ども達の大半が通っている。毎日電車で親子通学をしており、学校のある文京区が私たちにとっては第二の地域である。けれど、見えない・見えにくい子どもたちが毎日文京区に通っていることはほとんど知られておらず、視覚障がいに対する理解や周知が充分でないことが課題であると考え。いちごの会の子ども達は見える子と同じように元気に遊んだり勉強をしており、少しの言葉かけや工夫、手助け等の周りの配慮があれば自分でできることも多く、みんなで一緒に楽しめるということを知ってほしい。一緒に活動を楽しむことで視覚障がいのある子どもたちを身近に感じてほしい。		
実施期間	令和4年11月5日（土）	実施場所	文京区民センター 3階大会議室
対象者	*いちごの会の子どもたち小3～小5まで11名、保護者13名 *ボランティア参加者（小学生親子参加者4組、大学生ボランティア10名、教員ボランティア2名、六点会3名、文京区視覚障害者協会会員4名） *ゆるスポーツスタッフ14名 *見学者（講師、ガイドヘルパー含め15名） 総勢82名参加		
企画内容	<p>令和4年11月5日（土）9:15～12:00まで、文京区民センター3階大会議室において、いちごの会主催のノールック運動会を開催。世界ゆるスポーツ協会の全面的な協力で、見えなくても楽しめるゆるスポーツ4競技をノールック=見ないで体験した。</p> <p>いちごの会の子どもたち、保護者、見える小学生親子、学生ボランティア、文京区内ボランティア団体「点訳サークル六点会」会員、文京区視覚障害者協会会員、世界ゆるスポーツ協会スタッフ、見学者も含め総勢82名の大規模なイベントとなった。</p> <p>参加者をA～Kの11チーム（視覚障がい児+ボランティア+保護者+見える小学生・六点会/文視協）に分け、まず各チームで自己紹介とチーム名を決めてもらった。次に帝京平成大学准教授左振恵子氏より「見えない・見えにくい子どもとの関わり方」について説明を受けた後、10時から競技をスタート。</p> <p>前半は、「ボブイスレー」、「コツコツ!点字ブロックリレー」「ハットラグビー」を20分ずつローテーションで体験した。「ボブイスレー」は、専用のイスに座るイスリートと、モニターを見て指示を出すコーラーが力を合わせて行うボブスレー。コーラーの指示で、イスリートは足踏みをしたり体を左右に倒してゴールを目指す。「コツコツ!点字ブロックリレー」は2種類の点字ブロックでできたコースを、目隠しして、白杖を頼りにリレーしていく競技。「ハットラグビー」は中折れハットをかぶり、その上にラグビーボールを乗せてボールを落とさないように歩いてリレーする競技をそれぞれ実施した。3競技終了後の休憩時間では参加者に前半の感想をインタビュー形式で話してもらった。</p> <p>後半は全員を2チームに分け、「忍者カバディ」を体験。大きな小判のついたビブスと、スマートフォンをセットしたヘッドバンドを身に付け、4名の忍者は「ニンニン!」と言いながら、1人の殿様は「くせもの〜!」と言いながら、相手チームの小判にスマホを向けて「チャリン!」となると得点が入る仕組みで、チームの合計点数を競う競技。終了時間が迫り、1回戦しかできなかったが小判を取った時の音が面白く、とても盛り上がった。最後は全員で集合写真を撮影し、終了した。</p>		

	「ノールック運動会」で、見ることを必要としない競技をチーム形式で一緒に体験することを通して、見えなくてもできること、楽しめることを体感することができた。また、いちごの会の子どもたちにとっては、同じ見えない土俵での競技の為、子どもたちが、差を感じることなく、逆に上手にできて勝つことの体験を積むことで自信を持つことができた。チーム内での交流も深めることができ、当初の「視覚障がい児を身近に感じてほしい」という課題は達成できたと考える。		
参加者の募集方法	ボランティア参加者募集、見学者募集のチラシを開催1か月前に作成し、フミコム内のお知らせコーナーに設置、フミコムのHPに掲載、フミコム経由で日本女子大学の学生に配布。また、参加講師経由で東洋大学、帝京平成大学の学生に配布、これまでのいちごの会のボランティア参加者にメールでの募集を行った。		
協力した団体・個人	<ul style="list-style-type: none"> * 世界ゆるスポーツ協会 代表澤田智弘氏/スタッフ * 帝京平成大学准教授 左振恵子氏 * 文京区内ボランティア団体点訳サークル六点会 * 文京区視覚障害者協会 		
助成申請額/事業総額	198,000/198,000		
費用内訳 《当初予定》	品目	金額	備考
	講師謝礼×4名	40,000円	10,000円×4名
	施設使用料/備品運搬費	30,000円	
	ホームページ作成等広報活動での一部業者依頼	50,000円	
	ボランティア・講師交通費	20,000円	1,000円×20名
	ポスター・チラシ・活動報告書作成費	30,000円	いちごの会について/「ノールック運動会」募集案内について各チラシ200部・ポスター20部/活動報告書200部
	広報活動の為の会員交通費	20,000円	1,000円×親子4組、5か所
	参加者飲み物代	8,000円	160円×参加者合計50名(見学者・ボランティア含む)
費用内訳 《実績》	品目	金額	備考
	講師謝礼	40,000円	ゆるスポーツ協会謝礼/講師謝礼
	施設使用料/備品運搬費/備品代	30,000円	区民センター会議室施設使用料、打合せ施設使用料、行事保険代、子ども参加お菓子代、備品購入費
	ホームページ作成等広報活動での一部業者依頼	78,000円	HP・ロゴ・パンフレット作成代金/HP修正依頼費
	ボランティア交通費	20,000円	ボランティア交通費、クオカード代
	ポスター・チラシ・活動報告書作成費	10,000円	チラシ印刷代(100枚)/名前シール印刷代/活動報告パンフレット印刷代(800枚)
	広報活動の為の会員交通費	20,000円	施設見学、打合せの際の交通費
* 飲み物代8000円と印刷代20,000円分の予算をHP作成業者依頼費に移動			

1.当初想定していた成果に対して、達成度合いは何点か、その理由

達成度合いは、10点満点中8点と考える。なぜならば、当初予定していたいちごの会の子どもたちの参加11名に対し、同数以上の10名の学生ボランティア参加者、2名の教員ボランティア、4組の見える小学生親子参加者、また区内他団体（六点会、文京区視覚障害者協会）の参加者も集まり、想定以上の総勢82名の大規模なイベントを実施することができた。また、子どもの人数分11チームを構成し、小さなグループ内での交流を図ることで、子どもたちと参加者がより身近に交流できるようにした。今回、実施施設が予定通りに決まらず、実施時期が大幅に遅れてしまい、それに伴って町内会や企業への情報発信の期間がほとんどなくなってしまったことで-2点とした。しかし、今回活動報告を兼ねたパンフレット作成やHPが作成出来たため、今後も少しずつ情報発信の活動を続けていきたい。

2.企画を行なってみて、初めて気付いたこと、改めて確認できたこと**◆参加者の視覚障害児への理解の推進**

予想以上の参加者が集まり、学生のボランティア参加者のみならず、小学生親子、文京区内の他団体の参加者もいたことで、より様々な人達との交流することができた。また、子どもを中心に小さなグループで実施することにより、交流がより深まったと考える。イベント終了後にアンケート調査を実施し、（添付資料参照）参加者の感想から、一緒に同じ体験をするということが理解の推進につながったことを改めて確認でき、視覚障がい児と一緒に体験を共有することで、知ってもらえることができ、視覚障がい児への理解の推進ができたと考える。

◆活動報告書の作成及び配布を通じた啓蒙活動

イベント終了後に活動報告書を兼ねた、いちごの会のパンフレットを作成し、HPも作成した。11/19にフミコムの活動見本市に参加し、今回の「ノールック運動会」を含めたいちごの会についての紹介を行い、交流タイムに文京区内他団体にパンフレットを配布。様々な団体と話をさせていただくことで、今後のつながりを作るきっかけとなった。パンフレットやHPの作成ができたことで、より具体的にいちごの会の活動内容を知ってもらえることができた。

◆文京区内の他団体・関係機関が1団体以上増加

今回実施場所を決めることが予想以上に困難だった。私たち親子会は、子どもが文京区に在学だったが、住んでいる場所は様々で、だからこそ学校のある文京区を第二の地域として活動を広げていきたいと考えていたが、地域性の縛りが予想以上に大きく、子どもは未成年の為代表者にはなれず、区内在学のみだと区内の施設を借りることができないという状況に陥ってしまった。その為、当初予定していた9月の実施を延期し、再度、場所の再検討、また、場所を借りるための他団体協力者を探すことでかなり時間を要してしまった。けれども、これをきっかけに、文京区内の他団体に協力をお願いし、交流とつながりを作ることができた。また今回参加の学生ボランティアからは、今後のボランティア活動継続希望が多数あり、当初成果として考えていた文京区内でいちごの

企画の成果

会の活動に賛同、協力してくれる他団体・関係機関を増やし、今後も継続的に一緒に活動をしてくれるボランティアを1人でも増やすという目的は達成することができた。

3.あなたの考えた課題は“文京区の課題”と言えますか？

はい

【理由】今回のイベント実施後に参加者の感想をもらったり、見本市の参加・他団体との交流を通して、文京区には、視覚特別支援学校があるにもかかわらず、やはり区内の一般の方が視覚障がい児の存在を知ったり、関わる機会はほとんどないことがわかり、改めて課題だと感じた。今後も継続的に知ってもらいきっかけを作っていくことが、視覚障がい児の存在を区内で身近に感じてもらえることにつながると考える。

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）